16 de Setembro de 1922 No. 258

Noticias do Brazil

大正十一年九月十六日　土曜日　第二百五十八號

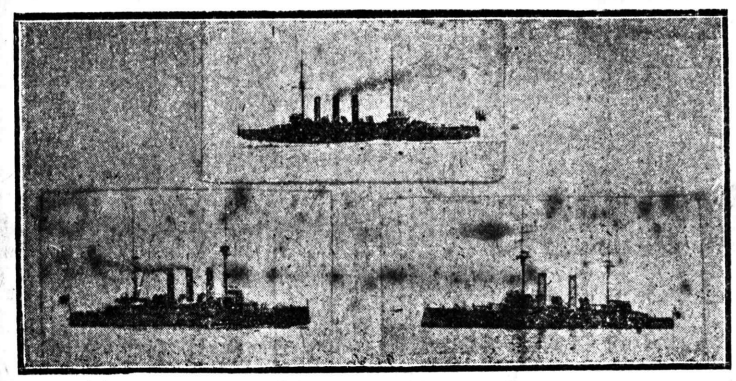
伯和西爾時報

NOTICIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Fagundes N. 16
Caixa Postal H
Tele. Central, 5695
S. Paulo, Brazil
Proprietario e editor
Seisaku Kuroishi

Assignaturas
por Anno ..... 15$000
„ Semestre ..... 8$000
„ Mez ..... 1$500
„ Semana $500

練習艦隊並に實業團歡迎

本年は在伯の私共に取り、誠に多幸多福な年だと云ひ得る、何せなれば伯國の獨立百年祭は、直接間接私共に幾多の教訓を與へたのみならず、此の記念深き祝典に參列の主意を持ち、遙々故國から谷口中將の率ゐる練習艦隊と、山科禮藏氏の團長たる實業團とが來つて、國際的禮讓を盡すと同時に、日本の世界的位置を伯國人に諒解せしめたのは私共の今後の發展に大なる助けとなるからである、勿論海軍の任務は海上にあつて、練習艦隊の遠洋航海は候補生の實地練習と見學とにあるのであるから、實業團の經濟的視察とは其の意義を異にするが加きも、現在及將來の國家の方針は總て平和の裡に經濟的ならざるべからざるが故、私共は練習艦隊乘組員諸君も亦伯國の經濟的視察に留意せらるゝを信ずると共に、實業團各位は各々異なれる立場から伯國企業に着手せらるゝを期待して誤りなしとするものである。元より多數の移植民が忍耐刻苦して新天地を開拓することが國勢發展の基礎となるものではあるが、さりとて之を自然の成行きに放任して措ては到底大を爲すものではないから、何とかして母國朝野の注意を喚起し、援助を仰ぎたいと思ひ居るの際、練習艦隊と實業團とが同時に來伯し、本日又來聖を見るに至れるは、私共の歡喜之に過ぐるものなしである。仍て茲に蕪言を陳じ赤誠を披瀝して歡迎の辭とする。



今朝サントス入港の練習艦隊

あさまいわていづも

伯國の海軍

●南米に首位を占むる

中世紀に海上に威を振つた、葡國人後裔である伯國の海軍は、今では艦艇噸數の上から、諸設備の點から、南米第一、超努級のミナスやサンパウロ號は、老いたりと雖も南大西洋上に威風を拂ひ目下ジエチヴに開催中の國際聯盟の軍縮委員會で、一級艦を伯國に四萬五千噸、亞國に八萬一千噸と限つたのは、片手落ちだ聯盟脱退と迄憤慨してゐる。

ドン・ペドロは伯國獨立を宣言しルイス・ダ・クニヤ・モレエラ海軍大佐を海軍大臣に任命すると、葡國側の艦隊はジョアン・フェリス・ベレエラを將として、バイア港に集中し、同市に據れるマデエラを將とする葡國陸軍と協力し、伯國に對し反抗の勢を示した、政府はコクレン卿後にマラニオン侯爵を司令長官として、伯國艦隊にバイア封鎖を命じた、艦隊及兵員數の上から、葡國側は數等上位にあつたが、遂に打破られマデエラ將の指揮した葡國陸兵も葡艦隊に乘込み、一八二三年七月二日バイアを遁れ出で伯國艦隊は之をラージョ河口の近くまで逐撃した之が伯國獨立當初に海軍があらはした功績である。ラバリエハの騒動に起因した伯亞戰爭で一八二六年伯國海軍は、リオ・ダ・プラタを封鎖してブエノス・アイレス艦隊に勝利を得た伯國海軍が、最も勇名を轟かしたのはウルグアイ、アルゼンチンと三國聯合で、パラグワイと戰つた當時の、リアシユエロの大海戰で、伯國艦隊が大勝を博した、此の他伯國海軍の活動した事は帝政時代にも、共和政時代にもあつた、帝政時代に一八五三年、パラー、アマゾナ方面に亞米利加軍の侵入ありときゝ出動し、一八五四年にはフエレエラデ・すりベエラが一艦隊を率いて、バラグアイへ談判に趣き一八六二年英國との國交斷絶せんとした當時戰鬪準備をさゝのへ、一八六四年にはウルグアイ戰爭でモンテビデオ封鎖バイサンヅウ砲擊等があり、共和政となつて獨逸砲艦パンテル事件、秘露及びボリビアとの國境確定問題、パラグアイとの爭議等に活躍し、近くは世界大戰爭に伯國も聯合側に參戰し、一艦隊はフロンチン提督を司令長官として偵察警備に任じた、最近には陸軍が佛國から教官團を招いたやうに、海軍では米國から教官團を招聘する事となり、その一行は此度の獨立百年祭の特使一行と共に來伯した。

今日伯國海軍に屬する艦艇は左の通りである。

▲戰艦

艦名	噸數	進水年
ミナス・ジエラエス	一九、二五〇	一九〇九
サンパウロ	同	一九一〇

▲裝甲海防艦

デオドウロ	三、一六二	一八九九
フロリアノ	同	一九〇〇

▲巡洋艦

バイア	三、一〇〇	一九〇九
リオグランデ・ド・スル	同	一九一〇
パロソ	三、四四八	一八九七

▲驅逐艦

アマゾナス	六五〇	一九〇九
パラー	同	同
ピアウイ	同	同
リオグランデ・ド・ノルテ	同	同
パライバ	同	同
アラゴアス	同	同
セルジペ	同	同
パラナ	同	同
サンタ・カタリナ	同	同
マト・グロッソ	同	同

▲練習艦

ベンジヤミン・コンスタンテ	二、八二〇	一八九四

▲潛水艇

F 1	二五〇	一九一四
F 3	同	同
F 5	同	同

▲給炭水船

セアラ	四、一〇〇	一九一四

▲運送船

ベルモンテ	同	同

其他數隻の小船艇から成つてゐる。

外國移民の伯國力貢獻

外國移民の伯國內活動地域は、全國の十分の一を越へない、而もその大部分は南伯の、サンパウロ、パラナ、サンタカタリナ、南大河の四州で、此の五州の面積は全國の十分の一以內で、八十二萬二千九百四平方基米突である。而して之等五州の一平方基米突人口分布率は、

サンパウロ	一五、七八
サンタカタリナ	一五、三六
南大河	九、二二
パラナ	二、七二
平均	一〇、七七

で之を伊太利の一二五・〇七、白耳義の二五二・〇七、和蘭の一七六・一七、獨逸の一二〇・〇四、佛蘭西の七三・八二に比して、果して如何なる感かある？而も全伯國の平均人口密度が三・六一なる事より押して前記四州が一〇・七七の密度を有するは、外國移民の多く活動する事を語るものである、之は全伯國中最大人口を有するミナス州が、その密度は僅かに一〇・二四なる事によつても證される。更に一八七二年と一九二〇年との人口增加狀態を見る時、此の四州の增加率とミナス州のそれと比して非常な差異を見るは、外國人が好んで來住する故なることが肯かれる。即ち

	一八七二年	一九二〇年
サンパウロ	八三七、三五四	四、五九二、一八八
パラナ	一三六、七三二	六六五、七二一
サンタカタリナ	一五九、八〇二	六六八、七四三
南大河	四四八、九六二	二、八三二、七二三
ミナスジエラエス	二、一〇二、六八九	五、八八八、一七四

でサンパウロ及びパラナは五倍し、南大河州も五倍に近く、サンタ・カタリナ州が四倍增加したのに、ミナスは三倍弱を增したに過ぎない。

更に在伯外國移民が、如何に伯國經濟に貢獻するかを知る爲、バイア以北とエスピリト・サント以南の二部に分ち、伯國外國輸出貿易額を、戰前と昨年とを對照すれば

	一九一三年	一九二一年
北部	二七九、九四一	三六七、四三九
南部	七〇二、八二六	一、三四二、二八三

で北部の地域は四百七十六萬十一平方基米突、人口千二百六十八萬四千三百七十三人、南部の地域は三百七十二萬五千八百十三平方基米突、人口二千七百九十五萬一千二百三十二人である。

次に伯國に於ける獨逸移民は、戰前に於て全伯國人口三千萬に對し、五十萬の獨逸系伯人を有し、中九千人は獨逸國籍を保持してゐた。

一九〇八年乃至一九一二年の、來伯外國移民數の最も盛だつた時代の入國移民の主なるものを示せば次の通りである

	國籍別	人員
葡國	人	二四八、七六六
西班牙	人	一二三、七九二
伊太利	人	一一四、六四一
露國	人	三七、八二〇
土耳古及アラビア人		二七、五五七
獨逸	人	二二、〇七五
墺太利	人	一八、八八二

▼▲ 東西南北 ▼▲

◆伊太利の最近國勢調査の結果非常な人口增殖を示したのに氣を揉んだ社會學者等は伊太利は之等過剩人口を維持する食料が不足だと叫んで

◆政府　當局の注意を喚起するに務め一九一一年より一九二一年迄に人口は六百五十萬を增加し中百二十五萬は一時海外にある者である。戰前は

◆增加　人口は南北米を始め地中海沿海諸國に移住し殊に兩米へ年平均十二萬人移住した現今も十萬以上は國外に勞働を求めてゐるが暫しも人

◆口增　殖は止まず移民出國數は減じ食料品の輸入は增加し下層社會には不安な氣分が充ちてゐる政府は失業者に耕作すべき地を與へ伊太利の

◆勞力　を供給すべき新天地を求めよと叫び伊太利の人口密度はリグリアに最も甚しく一平方基米突に付二百二十七人ロンバルヂアでは百九十

◆八人　カンパニイアでは二百ベチトでは百四十四人だと云ふ尙彼等は秘露コロンビアウルグアイ諸國へ直接に農業移民を送れと高唱してゐる

◆希軍　大敗で希帝廢位論勢强からんとし一方土國民軍首領ケメルは希軍と休戰を謀るを拒み希國は土耳其がブルガリアと國境を接しアドリアノーブルを得るに合意す可だと曰

◆國際　聯盟の軍縮委員から佛國の軍備理由を問ふたに對し佛國の回答に曰く十五萬は占領各地へ駐屯せしめ平和條約履行せしめる爲必要だし

◆領土　植民地守備の爲に廿五萬の兵を要し國內公安維持の爲國境守備の爲等に總計七十三萬五千を要するが六十九萬に減じ海軍は一九一八年

◆噸數　より三割五分を減じたと云ひ最後に佛國は尙縮少の希望は有が戰爭原因の解除され終らざる間は之以上に減縮する事は不可能だと結ぶ

◆新聞　王他界後目下英京では後繼者問題に花が咲き遺言履行手續も秘密裡に進行しつゝあるが未亡人は自ら亡夫の事業統轄の地位に就まじく

◆若當　然の權利として統轄しても實際には適當な主幹者を任命しタイムス及びデエリイメエルを支配せしめ自身は名前だけだらうと專ら評判

◇外電一束◇

◆日本と南米

東京の諸新聞は一齊に日本と南米との通商貿易發展を高唱し出し南米市場は日本の爲に最も有利な市場なるを以て日本商人は伯亞を初め南米諸國との關係を密接ならしめる必要がある日本と米國とは戰爭の爲に南米市場の歐洲品の地位を奪ふべき好狀態にある而も該市場に於ては莫大な收利が得られると論じてゐる

前農相山本達雄男は往訪のユナイテッドプレス記者に語つて曰く日本の各實業家は伯國其他の南米諸國が日本實業團南米訪問の返禮に日本訪問實業團を派する事を期待してゐると尙ほ同記者は多くの銀行家及び商工業家は皆山本男と同樣の希望を有し南米から訪日實業團派遣は日本と南米との通商發展を期する點に最良の諒解を得るものだと云ふ意見を有してゐると報じてゐる(以上東京電報)

◆土軍優勢

土耳其國民軍は希軍を追ひスミルナを占領した(アンゴラ電報)

◆白國對獨最後通牒

白國外相ジャスパー氏は獨逸政府に獨逸が八月及び九月の十五日支拂ふべき償金々貨五千萬馬克を六ヶ月期限の大藏證券で引渡し尙ほ九月十五日迄に白國銀行に金貨一億馬克の預金をなすべき旨を要求して最後通牒を送つた(巴里電報)

◆伯國商工界と米國

米國商務省の發表した所に依れば伯國の織物工業の發達は著しく其他の製造工業何れも繁盛であるリオの百年祭記念博は購買力誘發に一大好機でリオ及び聖市に於ける自動車取引業は最も見るべきものがあると(華府電報)

◆日本の北樺太領有

日本政府は北樺太買收に關し英米の意向を知る爲近々兩國政府へ公文通牒する筈である。ユナイテッドプレスは米國が反對する場合は日本は買收其他如何なる方法に依るも北樺太を領有しないと報ず(東京電報)

◇經濟欄◇

●伯國の製糖

伯國の製糖事業に就てモニトールメルカンチル誌の調査に依れば

製糖工場數	101工場
工場及附屬農地價額	二四、〇〇〇コント
平均年產出量	四〇、〇〇〇噸
同上價額	三四、〇〇〇コント
平均年消費量	二四、〇〇〇噸
差引輸出可能量	一〇、〇〇〇噸
一九二一年輸出量	一七三、〇六五キロ
同上價額	九四、一〇八、八四一ミル
五ヶ年平均輸出量(一九一〇及一九一三年平均輸出量)	九七、三六〇、〇六九キロ

而して一九二〇—二一年度に於ける伯國內各州の製糖高は次の如し

州名	數量
ペルナンブコ	一九五、〇〇〇噸
ミナスジエラエス	一七四、六五〇
リオデジヤネイロ	一一一、一九一
アラゴアス	六八、〇〇〇
セルジペ	三三、六六〇
パライバ	三一、二六四六
サンパウロ	三一、七三〇
パイア	二五、一〇〇
ゴヤス	二一、四四四
サンタカタリナ	一二、四八三
リオグランデドスール	一一、六一一
リオグランデドノルテ	六、〇六八
マラニヨン	二、六〇〇
マツトグロツソ	一、八〇〇
セアラ	一、七一一
エスピリトサント	三六三
バラー	三三〇
アマゾナス	五〇〇
ピアウイ	—
パラナ	—

●各國珈琲消費量

世界主な珈琲消費國に於ける最近珈琲一人當年消費量は次の如し

米國	五、〇七八(グラム)
白耳義	五、〇二〇
佛蘭西	三、〇五四
伊太利	八三
獨逸	六六
墺太利	四四
英國	三三

米國の消費量は禁酒令と共に增加し獨逸の消費量は戰時中は殆ど零で一九一八年には一人當三グラムを消費の割に過ぎなかつた

●サンタカタリナ州

ピライ水力發電所

サンタカタリナ州工業の中心地ジョインビレ市に動力用及び燈火用として、電力を送るピライ水力發電所は、ジョインビレ市を距る約二十基米突、ピライ瀧を利用して一九〇八年伯國資本で創設された。

此の瀧は二百九十米突の高さを有し、落下差は三百三十米突と計算されてゐる、此の瀧の上方には八十メートルと五十メートルの二瀧があると云ふ、發電機は三臺あり、內二個は獨逸製一個は內國リオ製だが、此の內國製が中々成績がいゝと云ふ、之が一分間に二十萬噸の壓力で注入する水の爲に、千回轉をして一千ボルトの電壓を得、更に之を二萬二千ボルトに變壓して、ジョインビレ市へ送電してゐる。

●伯巴鐵道調査着手

伯國パラグアイ間直通鐵道の最も便宜なる豫定線路を攻究する爲の任務を帶べる技術委員一行はカルロスエウレル技師を長として十日サルトグランデへ向けリオ市を出發し十二日聖市へ到着した尙同計劃案はサントス、アツスンシオン線(約千五百キロメートル)パラナグア、アツスンシオン線(約千基米突)パラナグア、アツスンシオン線(約千基米突)サンフランシスコアツスンシオン線(約千百基米突)の三線でカルロス委員長の意見に依ればサントスを起點とするものが採用されるらしい、とにかく委員一行は先づパラナバチマへ出で更に聖市へ歸りサントスに向ひリベエラ沿岸地よりパラナ州クリチバ市及びパラナグアを視察して伯巴國境のセラ・ケエダスへ到り最後にサンタカタリナ州のサンフランシスコ港よりフオツス・ド・イグアツスウに出てパラグアイ國境を越へてアツスンシオンに到る豫定で此の調査旅行期間は約三ケ月だと尙ほ陸軍當局ではサントスを起點としジユキア線よりリベエラ河に出でパラナ州へ入りクリチバ市イグアツスウを經て巴京アツスンシオンへ達する線を希望してゐると云ふ。

●中央鐵道收入

本年六ケ月間の中央線鐵道收入を前年同期間と對照すれば次表の如く本年年の總收入四萬六千十一コントスに對し昨年は四萬二千八百二十七コントスで本年は昨年に比し七分四厘三毛の增收で一ヶ月平均收入本年の七千六百六十八コントス五百ミルに對し昨年は七千百三十七コントス八百ミルで平均本年の月收入は一分二厘四毛の增收である。

	一九二三年	一九二二年
一月	八、六二〇コント	七、〇八〇コント
二月	七、〇七〇	六、七七〇
三月	七、五三五	七、五四九
四月	七、〇四〇	六、七〇〇
五月	七、七七〇	七、四五一
六月	七、九七六	七、二七七

訂正廣告

練習艦隊歡迎費寄附廣告中サンパウロ市中村才六氏五ミル、佐藤龜義氏十ミルは第七回と第八回とに重複發表、又第六回の小計二コントス四百二ミルとあるは二コント十一コントス九百九十二ミル同時に累計五百八十四ミル五百は十一コントス九百八十一ミル五百の誤り及第七回發表中林達次、武市正隆兩氏寄附金各十五ミルは各十ミルの誤り、從つて第九回累計二十二コントス〇六十九ミル五百レースは二十二コントス〇三十六ミル五百レースの誤りに付き訂正仕候

右廣告候也

大正十一年九月十六日

練習艦隊歡迎團

練習艦隊歡迎費寄附廣告

ジユケリー小學校新築費寄附者芳名並に金額

第一回(イロハ順)

金百五十ミル	林田實三郎殿	
同	石田長平殿	
同	鳥越善藏殿	
同	鐘ケ江久之助殿	
同	水城源吾殿	
同	山本保明殿	
同	阿南吉太郎殿	
同	鳥越寅次郎殿	
同	飯田米藏殿	
金百三十ミル	飯田嘉作殿	
同	立川林太郎殿	
同	原平榮殿	
同	水田源吾殿	
同	横溝義助殿	
同	古澤一郎殿	
金百十ミル	國三郎殿	
同	武角九之助殿	
同	中野興三郎殿	
同	林田榮太郎殿	
同	笹原吉作殿	
同	鶴口勝助殿	
同	豐吉殿	
同	原吉太郎殿	
同	賀藤太郎殿	
同	富太郎殿	
同	古倉次郎殿	
同	阿南仁太郎殿	
同	飯田吉次郎殿	
同	前田彥光郎殿	
同	高山之吉殿	
同	倉田亥藏殿	
金八十ミル	鳥越ナツ殿	
同	倉近吉殿	
同	江藤富藏殿	
同	田中次郎殿	
同	秋吉實殿	
同	林作太郎殿	
金七十ミル	鳥越吉殿	
同	倉田亥藏殿	
金六十ミル	横溝宇吉殿	
同	江藤岩次郎殿	
同	田中秀吉殿	
同	森田實郎殿	
金五十ミル	藤井新作殿	
同	上野澤太郎殿	
同	林伊增太郎殿	
同	水城益次郎殿	
同	大園藏殿	
同	竹內佐一郎殿	
同	吉田久吾殿	
同	古賀信軍殿	
金四十ミル	福本久二之殿	
同	杉山吾殿	
金三十ミル	同志會	

大正十一年九月十六日

ジユケリー

廣告

左の日割にて練習艦隊野球團と歡迎試合を行ふ

一、十七日(日曜)サントス市(カンポ・グランデ・サントスフツトボール倶樂部運動場)

二、廿一日(木曜)

午後二時より電車ラルゴ・ロザリオより十七番

午後一時半より

サンパウロ市コンデ坂下の北米人グランドにて

選手名左の如し

投補遊一二三右中左補缺

(龍)(武)

原鄕藤藤部藤野中田川上井

笹西齋佐安齋杉田神長河土

大正十一年九月

ミカド運動倶樂部

廣告

杉本觀美殿より大正小學校生徒帝國練習艦隊觀艦の爲めサントス行の旅費として金十五ミルレース大正小學校後援會へ寄附せられたり

御禮廣告

謹啓

私共在耕中は不一方御芳情を蒙り且つ一時歸國の際は御餞別を辱ふし遠路御見送の上難有奉感謝候實は一々御禮申上度如此に御座候

敬具

藤村貞藏

同 野村レイ

長女 フミ子

次女 ハナ子

長男 武彥

廣告

私共家事の都合を以て本日サントス出帆のメキシコ丸にて一時歸國致すべく候に就ては在伯中不一方御餞別を頂戴且つ遠路態々御見送り御芳情を蒙り尙ほ出立に際し多大の御厚志難有奉感謝候得共略儀以紙上右御禮申述度如此に御座候

敬具

大正十一年九月十六日

福島縣人 池田三郎

熊本縣人 妻リウ

林儀範

珈琲園コロノ募集

イラペエ及びチンブリイ町に近いソロカバナ線のシャバンテスス及びイバウツスウ兩停車場から二レグアの距離にあるコンセエイソン耕地は、土地は高燥で至つて健康地、地味は豐沃、水は好く、熱病も眼病もなく、而も大部分は生產力に富んだ新珈琲樹で、住家は瓦葺で、立派な耕地なり。今期收穫が終つたら新手入の爲に善良な家族の就働申込に應じる。豆や玉蜀黍を植え得られる、新珈琲樹一千本と、豆を耕作出來るフォルマードの珈琲樹一千本と、四分の一以上の土地に耕作の出來る三千本とを與へ一千本の手入賃二百ミルレース、百十二リツトル入一袋摘取賃一ミル四百レース、日給四ミルレースを拂ひ支拂は毎月現金を以てし、シャバンテス、イラペエ又はチンブリイ等へ買物の爲には、耕地から無料運搬する。耕地內にはフバ製造工場がある、牛馬山羊豚等を飼養し得る牧場もある。家長にして耕地視察希望者には無料乘車券を給與する。

希望者は耕地に於いては支配人 Duval de Moraes Aguiar 同氏への手紙は Timbury へ又聖市に於いては Rua Direita, No. 7 Sala, 32 の Alves Lima 氏へ照會されたし Chavantes の Hotel Grillo も案內も運搬も取扱ふ。

◇廣告◇

左記諸君の現住所御一報得度候

山崎庄馬　野中重助　五島菊市

河村末太郎　島田數惠　竹田森次郎

中牟田榮太郎　田の上熊五郎　大河內增太郎

鈴木勇　吉田由次郎

大塚丑太郎　遺族

◆當社貸付者にして最近他轉し未だ屆出なき諸君はその耕地殖民地名、線名等を詳記し御一報被下度候

大正十一年九月

海外興業株式會社伯國支店

Caixa Postal, 1082　S. Paulo

サンパウロ州の今昔
人口增加と外國移民

一五三二年マルチン・アツフオンソが初めてサンビセンテに上陸し、植民地を創設して今のサントス市の基をなし、其後現サンパウロ市の前身ピラチニンガ村を建設、一七〇九年一體の地をサンパウロと稱するに至つた當時は、ミナス・ジエラエスや、サンタ・カタリーナや、リオ・グランデ・ド・スル、ゴヤス、マトグロツソ、パラナ等を打つて一丸とした膨大な地方だつたのだ、然し其後前記各地方は夫々分離獨立して、一縣一州となり、一七四八年には葡國朝廷がサンパウロを、リオ・デ・ジヤネエロの支配下に置かうとしたのに反抗し、一七六五年に獨立地となつた、そして一八二二年九月七日伯國獨立の叫は、ドン・ペドロにより て此地に擧げられ、一八八九年十一月十五日共和政體宣言せられると共にサンパウロは聯邦を形成する廿一州中の一となつた、かくて現時のサンパウロ州は南はパラナ州に境し、西はマト・グロツソ州に隣り北にはオ・デ・ジヤネエロ州と接すると共に太西洋の碧波に洗はれ、面積二十五萬二千八百八十平方基米突、百九十二郡に區分され、人口は四百五十九萬二千百八十八人、一平方基米突當約十八人、政治、產業及び教育等他州に比し一頭地を抜いてゐる觀がある。

さて一八二二年伯國獨立以後、今日に至る百年間に於ける、サンパウロ州人口增加の模樣を示せば次の通りである。

年次	人口	增加數
一八二二	三九、二四六	—
一八三二	三六、六二五	五四、三三九
一八五四	五四、三三一	一三、五九六
一八七二	一、三八四、三三	四七、一三四
一八九〇	一、三九六、六八八	三、三九六、六八八
一九〇〇	二、八〇〇、四三四	一、四〇三、七四六
一九一〇	四、五九二、一八八	一、七九二、七五四

以上の數字の中、約二割三分は外國人と見做す事が出來る、その中で最も多いのは伊太利、西班牙、葡萄牙人で、その他獨、墺、露國人の多くを數へ、日本人は三萬二千四十三人を數へる。

州內農業勞働の爲、初めて歐洲移民の流入のあつたのは一八二七年で其に與つて功あるのはアントニイナ男爵及びベルゲエロ上院議員である一八八六年頃からアントニオ・プラード氏の盡力で、移民入國數は著しく增加した。

又一九二一年中にサンパウロ州へ入つた外國移民數は、三萬九千六百一人で、其の中三萬二千二百二十三人はサントスへ上陸、其他は各州から鐵道で入聖し、共に州立移民收容所に收容された。そしてサントス上陸移民中最も多數だつたのは、西班牙人の七千八百九十九人で、次は葡人の七千八百三十人、第三位は伊太利人の七千八百五人、獨逸人は二千四百十七人で、殘餘二千二百八十五人は其他各國人である。

又渡航費補助を受けて入つた移民は一萬三千五百六十三人で、自由移民は一萬八千六百六十人であつた。之を前年に比する時は、入國人員總數に於ては大差はなかつたが、補助移民の數は著しく增大した、鐵道によつて入聖した移民の約六割三分に當る四千六百三十八人は、他州の伯國人であつた

入國數に於て本年と昨年と稍々似たものがあつた如く、出國數に於ても大した相違はなく、移民と見做さるゝ三等船客出國數は、一萬六千七百九十六人で、居殘は一萬五千四百二十七人、即ち一九一四年以後最大の居殘を示した一九二〇年に比して僅かに三百九人少なかつたに過ぎない。

一八二七年以降一九二一年の九十四年間にサンパウロ州入國各國移民數は次の通りで、總計百八十九萬四千五十五人である。

國籍別	人員
伊太利人	八七二、七〇五
西班牙人	三三二、〇七八
葡萄牙人	二九五、八〇二
伯國人	七五、二一四
墺太利人	二九、〇一九
其他各國國籍不明	一五一、〇一一
計	一、三八、二二六
	一、八九四、〇五五

尙同期間內に一等船客としてサントス上陸入聖者數は二十三萬二千五百四十九人で、兩者を合計して二百十二萬六千六百〇四人が、サンパウロ州へ足を入れた事になる。

又海外興業會社經營の、リベエラ地方日本人就動狀態に就て、州統領が本年州議會への敎書に依れば次の數字を示してゐる。(一九二一年十二月三十一日現在)

	家族數	人員
日本人家族	四九七	二、二六三
伯國人家族	五	三〇
日本人獨身勞働者		一九
伯國人勞働者其他		二八〇
計		二、五九二

其他詳細は本社發行『新進之伯剌西爾』を參照されたい。

商業の發展

百年の昔、一八二二年時代には、サンパウロの貿易は單にサントス港のみならず、クバツウパ、ピラ・ペエラ、サン・セバスチオン、イグアペ、カナチア等の諸港でも行はれてゐた、然し一八七〇年頃から、サントス港の貿易額は隆々として進歩し殆ど獨占の勢となり、其他の諸港は殆んど沿岸交易のみとなつた。

伯國獨立當時に最も近い年代で、統計の知られてゐるのは一八二五年で、その輸入價額は一千五百十五コントス二百八十ミル八百三十五レースで、その中主なるものは

リンチル及び紐	三六六、八一九、六〇〇
毛織	二四九、〇四〇、二八〇
鹽及び鐵製品	一一五、七〇二、〇六〇
又輸出額は一千二百八十八コントス三百二十六ミル九十レースで、主な輸出物は	

品名	數量	價額
砂糖	五三、一三三、八六〇	六三、〇四四、一六〇
珈琲	二、二四四、九四五	三〇、六六、一六〇
豚及牛脂	四四、一四〇	一〇、八六、一六〇

其から三十年を經て一八五四—五五年の輸入總額は六千三百九十七コントス八百三十九ミル三百四十七レース、その中外國輸入貿易三百七十二コントス四十五ミル五百十四レース、內國移入貿易六千二十五コントス七百八十三ミル八百三十三レースに上つた、輸出總額は四千二百二十五コントス八十三ミル八百二十レースで中外國輸出額三千三百六十七コントス七十六ミル七百二十レースで內國移出九百十八コントス七ミル百レースであつた。更に三十年を經て一八八四—八五年に於ける、サントス港の貿易は次の通りであつた。

	內國	外國	總額
輸入	一四一、三五六、四八七	一〇、四一五、八五六	一五一、七七二、三四三
輸出	四八、三五六、二八一	四七、三〇七、一三四	一〇八、六六、一三六

即ち三十年以前には一千七百コントスの入超であつたが、此の時代には約四萬四千コントスの出超となつた。珈琲のみに於ても、百九十八萬四千九百三十三袋を輸出し、價額は四萬七千百三コントス二十一ミル五百三十二レースに上つた。更に最近三十年の長足の進歩の跡は、世界何れの國にもその比は見られない、一八九五年には輸入額は、一八九〇年のそれに倍額し、輸出額に於ては一九〇一年後に倍增した。一九〇二年乃至一九〇五年には經濟界悲境に陷り輸出入共稍々減退し、一九〇六年以後更に活躍を始め、歐洲戰爭四年間に又もや頓挫した。一九一〇年以降昨年までのサントス港外國貿易額を示せば

▲輸入 年次	伯貨額(單位紙幣ミルレース)	英貨額(單位磅)
一九一〇	一四一、七九九、九二九	九、〇五七、七六〇
一九一五	一三六、八六六、八二六	八、〇八五、三二八
一九二〇	六一三、四四六、五六四	三六、八六八、七五五
一九二一	一八、三三四、四〇九	一八、三三四、四〇九
▲輸出		
一九一〇	二六二、一四二、六〇一	一九、七四四、四二四
一九一五	四四五、三一二、六〇四	二四、一四七、一三四
一九二〇	八六〇、四七六、一四六	四五、三四〇、二五六
一九二一	八四一、〇一六、八七六	二八、七二一、三五三

昨年度の貿易額減退は、世界經濟界恐慌の影響を受け、殊に爲替は下落して、前年には一ミルレースに付十八片だつたものが七片にガタ落した等の爲に、前年に於て輸出入總額九千萬磅を算したものが、昨年に於ては半ばの四千七百萬磅に過ぎなかつた。

サントス港貿易輸入國としての主なるものは米國、英國、亞爾然丁、獨逸、佛蘭西其他で、輸出國の主なるものは米、佛、蘭、伊、獨等の順である。(詳細は本社發行「新進之伯剌西爾」參照)

會話と作文の最良獨習書

伯剌西爾語は言文一致であるから利用して會話と作文を同時に修得すべく仕組んで之に文法活用を附加へたのは本書である

伯剌西爾時報發行
葡語手紙書方
附文法活用自在

菊版美本全一冊　紙數三百八〇ページ

正價一部十二ミル（外に送料一ミル）

豫約期終了に付き正價に復す

故に葡語を獨習し又は手紙を書くには何人も此の書を座右に備ふるの要がある

▲未だ御購求なき方は速かに御注文を願ひます▼

發行所　伯剌西爾時報社

NOTICIAS DO BRAZIL Caixa Postal, H S. Paulo

◇新荷着御案內◇

◇食料品（數の子、土佐鰹節、削節、淺草苔、干瓢、干天、蒟蒻粉、椎茸、晒若目、昆布、福神漬、日本橋漬、蛤味付、筍子、苦味付、干蓮根、サザエ、食用紅、モチ米、アヅキ）
◇化粧品（御園白粉、クラブ白粉、クリーム、パール、口紅、三ツ石鹼、花王石鹼、金鶴石鹼、アルボース、齒磨粉其他ツゲトキ櫛、ピン櫛、スキ櫛、石入サシ櫛、石入ツト止メ、ガランボ、カモジ毛、タボ其他）
◇小間物
◇書籍（講談、喜劇、悲劇、活劇、各小說類五百藝題、修養書、現代日用文、流行歌集、浪花節、小學讀本卷の一より終迄）
◇金物雜貨（稻刈鎌各種、鉋丁、大工用ヤスリ、理髮道具一切、花カルタ、線香、齒磨ヨージ、卷皮財布、其他）
◇日本野菜種子一切　直輸入商
◇中將湯寶母散新藥澤山

中矢商店
K. NAKAYA Rua Conde de Sarzedas, 69 S. PAULO

日本貿易株式會社
聖市出張所
Rua Quintino Bocayuva, 80
Caixa, 1714 Tel. Cent. 3449
São Paulo

リオ支店
Rua Candelaria, 90
Caixa Postal, 1246
Rio de Janeiro

聖波羅土地材木殖民會社

當社は水質良好、氣候溫和にして珈琲其の他の全作物に適する肥沃なる絕好殖民地ビリグイ。エイトール、レグルーの土地を廉價且つ拂込方法を容易にして賣却す

當社は既に千八百家族の各國人を有し、其中四百家族の日本人植民し且道路四通八達し兒童敎育機關及日本醫院の設備等あり

尙詳細は左記宛御照會ありたし

ビリグイ代理人　宮崎八郎
Est. Birigüy L. NOROESTE

FUJISAKI & COMP.
日本各種品

東京本店　赤坂區溜池町卅三
本店　リオ、デ、ジヤネイロ
支店　ベルナンブーコ

藤崎商會
サン、パウロ支店
Rua S. Bento No. 68-A
Tel. Cent. 2788—Caixa, 344
S. PAULO

●新進の氣に充つ聖州工業

一八一〇年獨立陸軍少佐ファルナアゲン氏を社長として、資本金四十八コントスの株式組織で、イパチエマ鐵工所が創立された。一八一一年にはサンパウロ市に、アントニオ・クアルチン中佐が、力織機を以て綿織工場を設けた、然し之等諸工場は大した繁盛を見る事は出來なかつた

初めてサンパウロ内に蒸汽機關の据え付けられたのは一八三六年で、葡萄酒製造に使用された、同年サントスにも獨逸商人フエデリコ・フオム氏は、砂糖精製用として蒸汽機關を据え付けた。

一八五二年にロペス・デ・オリベエラ大佐は、ソロカバへ綿織工場を起したが之が、サンパウロで蒸汽力應用織物工場の最初である。一八七五年以後鐵道が各地に開通され、歐洲移民流入増加に伴ひ、農産物生産が増大すると共に、工業も活躍を始め、殊に綿織工業はサンパウロ産出の綿を原料とし、自給自足の結果長足の進歩發展をなし、一八六〇乃至一八八〇年には、各地方に工場が設立された。又農業が主要産業だけに農具製造工場も日一日と發達し、殊に珈琲作業用品の工業は一段と進歩した。帽子の製造は既に一八五一年に始められ一八七九年にはサンパウロ市に、帽子製造として、ギレルメアウエルベック會社が設けられた。

一八八五年の統計に依ると、ソロカバ、イツウ、ジユンジアイ、首府其他に十二綿織工場を數へ、資本額は四千コントス（一コントスは千ミルレース）織機は千二百臺、就働職工數一千六百名、生産年額約一千二百萬米突であつた。尙ほ其他に聖市内に四百二十五コントスの資本で、七十人の職工を有し、年産額三十二萬米突の一綿織工場があつた。

共和政體となつてから、資本と勞力が充分にあつた爲に、州内工産は俄然膨大し、各種多數の工場が設立された。けれども一八九七年乃至一九〇〇年の經濟界の大恐慌に遭遇して、或は倒れ或は解散するもの相踵ぎ、非常な混亂狀態に陷つた。

一九〇〇年後は、保護關稅の惠を得て、聖州工業は瞬く間に復活し、再び以前の盛況を現出するを得た。織物、製靴、麥酒、食料品等各種工場の生産品は、州内消費のみならず伯國内各地からの注文を引受けるまでになつた。一九〇〇年以降發達の模樣を知る爲州内工業五年毎の産額を示せば

一九〇〇	六九、七五二、〇〇〇
一九〇五	一〇〇、二九〇、四〇〇
一九一〇	一八九、三七〇、〇〇〇
一九一五	二七四、一四七、四二二
一九一九	七一二、六六二、三二七

歐洲戰爭と共に、外國品の輸入困難となり、從つて各種製造工業は異常の發達を來し、かの綿織物の如きは優良品を除く外、外國品を市場より駆逐したばかりでなく、南米他國へ輸出するに至つた。主要な工業品の生産年額を見れば

年次	綿織物	靴
一九〇〇	三、三〇〇、〇〇〇ノートル	一、六〇〇、〇〇〇足
一九一〇	五、八三、四三〇	三、六〇六、二六七
一九一五	三、三六九、七二八	四、八六三、〇二一
一九一九	一五、三五、〇六八	六、三二八、四〇六

	帽子	麥酒
一九〇〇	一、〇六〇、〇〇〇個	八、〇〇〇、〇〇〇リツトル
一九一〇	二、三四二、三六七	八、九五三、三二九
一九一五	二、四七二、三五三	七、九五九、三六〇
一九一九	二、三六六、二六九	二四、三六六、四五二

更に一九一九年中の生産狀態は

種類	單位	數量	價額
各種織物	—	—	三四六、九六二、四四〇
仕立衣類	—	—	一七、〇六六、八五一
帽子	個	二、三六六、二六九	三、三七七、三五三
洋傘	本	三〇六、八五五	一、三〇六、〇〇三
靴	足	六、三六八、四〇六	五一、八四二、八七七
飲料	リツトル	四一、八七〇、二六八	五三、九五三、一〇六
	リツトル	二、二四四、七二三	四三六、九四二
酢	キロ	二、六五二、三五四	四、三六二、〇五六
菓子類	キロ	二、三六、八三六	四、〇四一、三六二
藥品	キロ	六、三三、六二九	一〇、六九二、三五二
化粧品	キロ	—	一、一四三、一六〇
煙草類	キロ	五七一、一四五	四、六六九、三五三
蠟燭	箱	九三、二四四、〇一六	三九六、三五九
燐寸		三九六、三五九	四五九、四六六
トランプ	キロ	一、二六、九二四	一、七四三、一〇一
陶器硝子		二〇四、三五六、七二九	二〇四、三五六、七二九
其他		七二、六六二、三三七	七二、六六二、三三七
計			一〇六、一八八、〇〇〇

聖州工業の第一は綿織物で、殊に近年の發展は著しく、次表に明なる如く、工場數と共に資本及び就業者の數を激増した。

年次	工場數	職工數	資本額
一九〇五	一八	六、二六六	三五、三六、二五〇
一九一〇	二三	一三、三六六	四六、六三二、八三五
一九一五	四一	一七、九六六	八一、四三五、三三
一九二〇	四四	一七、八三二	一〇六、一八八、〇〇〇

飲料及び食料品製造工場數は、一九一九年現在に於て第一流の設備を有するもの百四十一、二流のもの二百二十一、三流のもの一千九十一工場を有してゐる。

州内に鞣皮工場七十八を有し、年々二十五萬枚の皮を鞣めす、之等の鞣皮は製靴、馬具、鞄製造等に用ゐられるのである。

其他各種金屬、農業器具器機、家具、硝子、製紙等工業の發達は全伯國に冠たり、一九二〇年聯邦政府調査に依れば、首府、ソロカバ、カンピイナス、サントス、サルト・デ・イツウ、サン・ベルナルド諸地方に散在する。大小各種工場數は大約一萬五千と算定してゐる、而も聖州生産品の名は既に全國に喧傳され他州への移出額は年二十五萬コントスに上り、最近に於てアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ等の市場にも歡迎されるに至つた。

●聖州農業發達の經路

伯國獨立時代のサンパウロの主要農商品は砂糖、火酒、珈琲、玉蜀黍煙草、綿、マンジョカ等であつた。面白い事には當時聖市附近には小麥の栽培が盛で、生産小麥の小量を亞國へ輸出してゐた、等と云ふ今から思へば嘘のやうな事實がある海岸地方では藍草が栽培され、一八一七年には藍の製造工場六百も存在した。之等の中で最も重きをなしたのは甘蔗で、一五三二年サンパウロ地内に植民が始まつた當初から栽培されてゐた。一八二七年には五百七十の工場があつて、一萬一千九百三十噸の砂糖、二十四萬七千九百三十九樽の火酒を産出してゐた。一番盛だつたのはカンピイナス郡で、一八一九年には六十工場を有し、内十五工場は水力で運轉してゐた。

珈琲の栽培はカストロ・メンドンサの總督時代、即ち一七九七年に初まり、パライバ河沿岸地方最も盛大に赴き、一八二五年には年産額は五千四百噸に上り、サントス港からの輸出量二千二百二十五噸を示してゐた海岸地方殊にイグアペ方面は、米が最大富源で、一八一七年には既に三十六ヶ所の精米所があつた、之等の大部分は水車で作業をしてゐた。

一八二七年の煙草の收穫高は、三百噸と計上され、栽培は極めて少規模で、生産品は皆内地消費に充てられ、それでも一八二五年には、百八十八噸を州外へ輸出してゐた。

一八三五年以後、オエステと呼ばるゝ地方は、地味と氣候の關係から珈琲栽培の長足の進歩をなし、此の年及一八三六年には、カンピイナス郡では僅に十二噸の生産があつたに過ぎなかつたが、段々甘蔗を珈琲に代ふるに至り、一八五〇年には三千噸の珈琲を産し、砂糖は僅かに二千四百噸と減じた、一八五四年にはサンパウロ内には、二千六百十八珈琲耕地を有し、生産額は六萬五千八十一噸、價額一萬四百六十一コントス百七十三ミルレース、製糖工場は六百六十七に減じ、産額は一萬二千九百九十二噸、價額一千五百九十八コントス五百七十ミル、三百三十三樽の火酒三十一コントス四百八十ミルレース、牧場數五百三十二、乳牛數三萬四千六百九十一頭を有し、二萬三千六百七十九頭を、四百五十五コントス二百八十九ミルレースで賣つてゐた。一八二五年に初めて植え付けられた茶は、此の時代に二十五噸餘綿は十五噸、煙草は四百七十噸を産出した。

十九世紀後半に入つて、珈琲栽培は益々發展し、オエステ地方から、モジイグアツスウ、バルド諸川の沿岸地方アンパロ、リオ・クラロ、サン・カルロス各郡に殊に盛で、一八七〇年の終に鐵道が開通すると共にリベロン・プレート附近は、有名な『珈琲の海』を形成し、聖州今日の誇をなすに至つた、かくて一八六九―七〇年の生産高は五萬百三十四噸に達した。

割合に收利率が珈琲に比して尠い爲に、甘蔗の栽培は顧みられず、僅かに地味氣候の好適な、チエテ河沿線、ピラシカバに名殘を止め、生産額は内地需要を漸く充たし、一八七五年には州外輸出は影はひそめてしまつた。

米國に於ける南北戰爭が影響して綿栽培は一八六六年から一八七六年にかけ驚く可き發達をし、年輸出額は七千乃至八千噸に上つた。

帝政の終期に近く、一八八四年及び一八八五年、歐洲移民流入が始まつて、農産額は急に増大し、珈琲十四萬六千六百八十七噸、砂糖六千七百二十八噸、火酒十六萬ヘクトリツトル、綿二萬四百八十三噸、煙草一千九百九十五噸、葡萄酒一萬二千六百ヘクトリツトル、其他多量の玉蜀黍、米、馬鈴薯、豆等を産した。

氣候と地味の良好な爲と一方歐洲移民渡來は倍増し聖州農業は最近三十年間に、急激な大發展をなし、遂に今日では伯國第一の農産地となつた。尙ほ最近詳細の聖州農産狀態は本社發行の『新進之伯刺西爾』參照されたし。

●聖州教育界と日本小學校

伯國の國民教育は、葡國遠征隊同伴のジエスイット教僧と深刻な關係がある。葡王ドンジョアン三世時代トメ・デ・ソウザが初めて總督として渡伯した際、王はマノエル・ダ・ノブレガ僧を同伴せしめた。かくて一行は一五四九年伯國に到着し、ノブレガ僧は早速自身で家を建て、印甸人の子女を收容して神學校を設け讀書算術書方と共に、基督教々旨を敎へ、又印甸人が音樂が好きな事を知つて、その子女等に唱歌を敎へた之が伯國敎育史の起源である。

一五五五年或は六年かにサンパウロのサン・ビセンテに、レオナルドのノブレガ僧の設けたやうな學校を建てた、之がサンパウロに於ける學校の最初である。かくて十六世紀から十七世紀の、伯國の敎育は一面宗敎々育、殊にカトリック敎宣傳の爲であつた。十八世紀の初めに當つて、ポンバル侯爵は敎育界からジエスイット敎を分離し、本國同樣の

（以下五面へ續く）

◎食料品
梅干、白玉、片栗、干蓮根、干瓢、椎茸、寒天、切昆布、厚板昆布
味付苔、福神漬、ノリ鑛詰、ハゼ味付、イカ味付、アサリ味付、赤貝味付、小鮎、筍水煮、茄子の辛子漬、鰻佃煮、大豆、はづき餅米削り節、土佐上等鰹節、食紅各種、蛤鑛詰、ワカメ、蒟蒻粉

◎日本野菜種子並ニ内外種子一切
今が蒔付の好期節であります

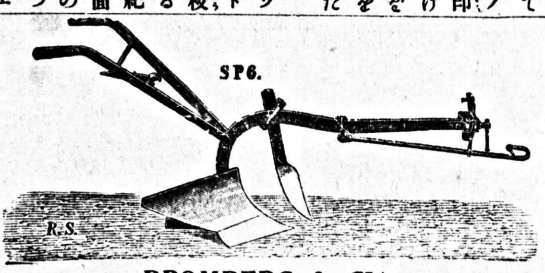
◎賣藥、金物、化粧品、小間物、書籍一切

◎殺菌殺虫器具
◎噴霧器　獨逸製　九月中旬着豫定約一一〇、〇〇〇内外
内國製　上等壹〇〇、〇〇〇、並七五、〇〇〇
『サルバドール』九月中旬着豫定
約五〇、〇〇〇内外

◎殺蟻器
ベルテバリス獨逸製　一キロに付價格を示す
アセニコシユンポ農務省發賣の物　二十三キロ入　九三、〇〇〇
『硫酸銅　一、八〇〇』生石灰　一ミル但し十六キロ鑛入』アセニコブランコ　三、〇〇〇　硫黄　九〇〇レース
外に送料は實費申受候注文は前金に願上候
其他内外百貨取揃へありますから御買上は第二として是非御立寄之程願上候

直輸入商
瀬木商店
Y. SEGUI
ルア　コンデ・デ・サルゼーダス四九番
電話　セントラール……三八三六番
Caixa, 1771—S. Paulo

獨逸製並米國製アラード及附屬品、犂、製粉機、穀皮離脫機、其他一切の農具並石油發動機、牛馬牽引發動機等安價にて堅牢なる品多量到着致候間御用命伏して希上候
尙詳細は左記へ御照會被下度日本文ならば時報社宛に願上候



聖市キタンダ街十番
プロンベルグ會社
BROMBERG & CIA.
Rua Quitanda No. 10
Caixa Postal, 756,　S. PAULO

手紙の宛名及送金に就て

一、本社々用に關する御手紙は必ず『伯刺西爾時報社』（Noticias do Brasil）と封筒表に御明記の上御發信を願ひます。

註―社用の手紙を社長若くは係員個人の名を以て發送せらるゝ時は名宛人不在の場合解封し能はざるが爲め事務の滯滯が免かれぬからであります。

一、購讀料、廣告料及び其他の代金にして本社宛に御送附の場合は『現金封入便』又は『郵便爲替』にて御送金を願ひます。

又右の場合は封筒の裏面に必ず差出人の姓名、宿所を横文にて記入して頂きたい。

註―折角送金したりとしても其手續を誤つたり封筒の裏に宿所姓名の書き入れを忘れたりすると途中紛失したり又到着しても何人から送金して來たものか判りませんから御送金の場合は必ず右の二條件を具備するが必要であります。

伯刺西爾時報社

教育を施す事に努力した。ドン・ジョアン六世が葡國から遁れてリオに遷都すると共に、教育を大に奬勵し博物館、植物園、美術學校、海陸軍學校、其他諸學校を建設し、文化大に興つた。

伯國獨立と共に初等教育は、各地方政府の管轄となつたので、中央政府管轄の高等教育は、異常な進歩を示すに反し、初等教育の少しも振はざる不具現象を見るに至つた。一八二七年政府は聖市及びオリンダ市に法科大學を設置した。今の標準中學として名あるペドロ二世中學は、獨立數年前に設立された。

一八三二年に全伯國内に百六十二の男子小學校、十八の女子小學校があり、首都、バイア、ペルナンブコ北大河、ピアウイ、バラ、マトグロッソ、ゴヤス、サンパウロ、南大河諸地方に散在してゐた。一八四三年には小學校四百四十一、羅典語學校五十九を數へ、當時の人口は六百萬で約半數は奴隷や印甸人だつたので人口五百二十人に就き一校の割であつた。

帝政時代には無學者は八十五パーセントを數へたが、共和政となつて三十年を給た今日、無學者は七十パーセント迄に減じた。リオ市では四十パーセントになつた。共和政となつて鋭意教育事業刷進に努力した士はベンジャミン・コンスタンテである。

一八七二年には全國學校數四千五百五十二、人口千人に付五校の割、就學兒童數十三萬九千三百二十一名で、千人に付十四人の就學者の割であつた、一八八九年には學校數は人口十人に付六校の割、就學者は十八人の割、一九〇七年には學校數の率は同樣で就學者の率は二十九人に增加した。

サンパウロ州に於ては次の數字を示してゐる。

學校數	一八七二年	一八八九年	一九〇七年
人口千人率	四三	一〇六八	一、六四〇
就學者數	五	八	六
人口千人率	二、三二〇	三、六六九	九、七一〇
	一四	一六	三二

更に一九二二年八月の學州學務局調査に依れば、各種小學校數二千七十七校、此の級數五千百十七、就學兒童二十萬七千五百四十三名で、此の外に師範學校十、技藝學校四、州立中學校三を有してゐる。

次に在サンパウロ帝國總領事館調査に依る、同館管内の在留日本人の經營に係る小學校は昨年末現在でミナス州に二校、サンパウロ州に十一校、合計十三校その教員數二十三人中、日本人十六人伯人七人、學齢兒童數三百二十三人、就學兒童數三百五十人とある、就學兒童數が學齢兒童數より多いのは、六歳未滿の就學兒童數を含んでゐるからである。

●伯國人の特性

本篇は在リオ帝國公使館の野田書記官が、ろの伯國に關する新著執筆中の原稿中から、特に本紙の爲にろの一部を提供されたものである

ブラジル國民は著しく相異した三人種から成り、其の混淆の道程は今尚ブラジル人と云ふ新型の一人種を形造る所までは進んでゐない、從つて伯國民性なるものも、今尚形成の最中であるから、此が伯人の特性だと、明確に指摘することは甚だ困難である、併し常識的觀察眼と、公平な判斷力を有する歐米の旅行家が、伯國を旅行し親しく伯人に接して得た感想中、彼此共通した點を擧ぐれば、其處に自ら伯人の性格の、特徴を髣髴する事が出來やう。

佛蘭西人ピエール・デニスが、その著『ブラジル』の中に

『伯國人が賓客を接待する仕方は、親切、叮嚀、加減の良さに於て、歐洲人の最賓客優待に力むる者の想像する以上である、かゝる賓客待遇は人をして家庭と親密な關係に入らしめ、その内情を考察する便を與へる家族は概して多人數で、十人の子女を有する事異常とは思はれない、父の權威は尊敬せられ、子は外から歸ると親の手に接吻する。妻は家事を擔任し、客に對し主人役を勤むるは良人である云々』

と内奥地伯人を評し、同じく佛人のポール・ウォルも其の著『ウルグアイよりサンフランシスコ河迄』中に

『伯國人の賓客優待の情は、伯國人の善心の最も顯著な一表現である。實際に此の待遇を受けた者でなければ、其の叮嚀さや親切振は想像し難い、之は殊に田舍の農場で觀察せられ、客が歡迎されてゐる事、又自分等は客がその歡迎を受けて呉れるのを悦んでゐる事を、客人に知らせたいとつとめる。客が到着すると、人々は直ちに客にその趣味や嗜好を問ひ、客の意に適ふ樣萬事に心を配る而も其の歡待は、前後の思慮なく一時に浴びせかけるのでなく、逗留日を重ねても變らない。伯國に於ては亞、智、秘等の諸國の、孰れの地に於けるよりも、一層我が家に在る感を吾人に起さしめた。ブラジル人の客人優待振を判斷せん爲に、行くべき所は主として内奥である云々』

と云つてゐる。ブラジルの國民性が、外國の影響を最も多く蒙つてゐる所の、リオ市其他の大都會に於ては『ブラジル人の家庭は。外國人に對しても、一層内國人に對しても、客人の待遇も質朴慎重に閉され、田舍同樣の親切味を有たないが、兎に角虚飾なき豁然たる心で歡待する事は、全國を通じてブラジル人を支配する調律である。ポール・ウォルは尚曰く、『ブラジル人の性格の根底は、一大柔和であつて、粗暴を憎み怖れる、人と交るに單純で、禮讓を重んじ且上品であるが、併し其の中に稍沈欝な調子と柔和にして、悲哀さを持つた性格がある。彼等は社會上、若くは宗教上の僻見を有たない樣に見へる。伯人の一の顯著な特徴は、甚だ深く平民的な性格である。ブラジル人はその訪問者が、白人たると黑人たるとを問はず、又社會上の階級の高下を論せず、双手を擴げて他人の訪問を歡迎し、餘り嚴格な態度は之を嫌ひ、殊に面倒な禮式は之を好まぬらしい。政府の最高顯職にある者も大官も、何人にも面會を許し、且何人にも同樣の飾氣ない態度を持つる。即ち卒直且つ親切な態度で應接する云々』

尚一つブラジル人の美質として、一樣に認められてゐる事は、その如何にも優雅な事で、單に一時の假面でなく、全く生來の性質である。米人故ロビンソン・ライト女史は、その著『新ブラジル』の最後に、

『禮讓はブラジルに於て、最も懇篤な表示を有し、客人優待はブラジル以上に好適の紛圍氣を知らない。又純然たるブラジル式の一淑女、若くは一紳士の作法及對話振が示してゐる以上に、優雅の適例は全世界いづれの國にも存在しない。』

と激賞してゐる。

ブラジルの一般人の間には、誤解された一種の愛國的精神に驅られ、伯國人同志の間では可成手酷く、自國の政治家や制度に、失當の攻擊をすら爲すに拘らず、外國人が少しでも伯國、又は伯國民に關して惡評や非難をすると、彼等は擧つて大に憤慨し反撥する。

ブラジルを訪問した人々に依り、一般に指摘されたブラジル人第一の缺點は、その天性懶惰な事である。そしてその因の多くは、伯國が決して生活に困難を感せざる、極めて天惠の富裕な事と、氣候の影響に一致してゐる。同情と共に誠意を以てブラジルを觀察したポール・ウォルは尚ほ他の缺點をも擧げてゐるが、其の一は他人の惡口をする事である。

『ブラジル人は根が好人物であるから、決して惡意がある譯ではないが隣人の噂をすることを好み、且專ら談話し續ける。』

と云ひ、且賭事と政治とを好むの缺點をも擧げてゐる。エーカースはその『南米史』に『概して伯人は明敏な性を缺いではゐないが、精神は錯雜紛糾せる細事を明確に會得する爲め、恒久忍耐には無能力である。』と云つてゐる、伯人の美質と缺點は概略以上の如くで、善惡双方を公平な批判の衡器にかけて較べて見れば美質は缺點を償ふた上、性質温良と云ふ餘がある。而してブラジル人は其の温良なる心と、豊沃にして天産に富む土地とを開放して、外國人を歡待優遇するのである。

小生儀都合の爲來る十月の便船を以て歸國可仕候に就ては小生と鄕里を同ふし御國許へ御傳言又は御屆物等有之候御方は左記宛御送付相成候へば必ず御屆可申候

大正十一年八月十八日

熊本縣飽託郡中原村字今新開四百六十二番地

山田喜八

Estação Cerqueira Cezar
L. Sorocabana

鹿兒島縣

長井清明

右至急要件あり現住所御通知ありたし

海外興業株式會社　移民部
Caixa Postal, 1082
São Paulo

廣島縣加茂郡阿賀町千百六十二番地
家長　上垣内多助
妻　ツタヨ
長女　タカエ

本國より貴殿等へ對する戸籍謄本送屆に關し至急現住所知りたし

海外興業株式會社　移民部
Caixa Postal, 1082
São Paulo

◆コチャの畑◆

附近には澤山の日本人家族があつて立派な自動車道も通じてゐれば住家や其他の設備がある處女林やカポエロンのある上等の大きな土地を賣却します。御希望の御方は左記の所有主へ願ひます。
Rua Conde São Joaquim, 12

廣告

私儀今般ビリグヒ町中央に於て理髮店及び旅館業相營み候間大方諸賢の御引立を蒙り度く此段奉冀候尚ほ理髮機械及物一切の研磨の御注文に相應じ申すべく候

福岡理髮店　旅館　主　浦六平

當館本月一日ヨリ Rua São João No. 7-B 及 No. 9 ヘ移轉セリ
但シ當館ヘノ書信宛名ハ從前通左記ノ通認メラルベシ
記
Consulado do Japão
Caixa Postal, 144
Ribeirão Preto

大正十一年八月十日
在リベイロンプレト
帝國總領事館分館

◆最新式米國型洋服◆
◆叮嚀迅速廉價調製◆

矢部洋服店
Alfaiataria Yabe
Rua José Bonifacio, 11 A
Sob. Sala 3, Tel. 3434 Cent.
São Paulo

實印紛失廣告

本籍　沖縄縣國頭郡羽地村字仲尾次二八七番地
現住地　伯國サンパウロ州ノロエステ線ペンナ驛サンテンブレ耕地
大正十年二月紛失
松田平太

CASA ALOISE
ALFAIATARIA
Rua Liberdade, 53
Telephone Central, 3844

弊店は常に高尚優美なる新流行服を極めて廉價にて調製いたします
リベルダーデ街五三
カーザ、アロイゼ
電話セントラル三八四四

民刑商訴訟手續其他一切の法律事項懇切取扱
辯護士　ジルベルト・デ・アンドラーデ
事務所　R. S. Bento, 12 B 1º andar Sala 10

◆日本人に對する法律事件の相談
辯護士　ジョアキン、デルフイノ、リベーロ、ダ、ルース
事務所　總領事館同建物四階十四號室
Dr. J. Delfino Ribeiro da Luz
L. da Sé, 3, 3º. andar Sala, 14 S. Paulo

優良なる農具及工具用双物一切の御注文は本工場に願上候

H印鐵工場
平田初太郎
Caixa Postal, P. P. SANTOS
サンタンソン、ジュキーア際

伯剌西爾時報取次所
旅館　成功館
サントス港　古謝將義
Largo 7 de Setembro, 15
Tel. Central, 2008, Santos

綿の種子なら
PEREIRA IGNACIO & CIA.
本商會發賣の綿種子は政府農務部の試驗濟消毒保證付です
御注文は多少に拘らず次へ
Rua de São Bento No, 47
Caixa Postal, 931
São Paulo

O CHYMOGENIO
胃腸病其他一切の消化器病無二の特効根切藥
▲各地信用ある藥店に販賣▲

病氣の爲め禁酒
酒井一男

長壽を望む人は本藥を座右に缺く可からず、ブラジルに一番多い消化器病に本藥を忘るな！

バテンテ・カッシーリョ・ボールタを製造開始致候間御用命被下度候
カーザ東京
家具商　杉本芳之助
Rua B. de Itapetininga, 20 S. Paulo

醸造元　太田吉太郎
サンパウロ郵便函二〇〇七番

愛用ある名聲
王女の油醤
ORVALHO DE FLOR
『花の露』印
K. OUTA & CIA.
倉庫部　山田隆次
コンデ、デ、サルゼーダス街六五番

●南米に覇を唱ふる 伯國陸軍の大要

眞の平和と云ふものが、此の世に於て得られるものでなく、所謂武裝の平和に活きるとしたら、一國の獨立を擁護する必要上、陸海軍備は全然解除する事は出來ない。伯國は產業上のみならず、軍備に於ても南米第一として牛耳を採つてゐる。これはいくら伯國が平和の愛好者であるとしても、他列國が夫々軍備を擁する以上、その廣大な領域を保全し、商工業を後援擁護する必要上當然の結果である。

一五〇〇年伯國が發見されて以後伯國の沿岸は絕えず佛、西、蘭等の海賊的行爲の掠奪を被つてゐた。一五二六年葡國王ドン・ジョアン三世の命を承けて、伯國防禦の爲リスボンを出發した、クリストボン・ジャツケスを將とする六隻より成る一艦隊は、トウドス・オス・サントスで三隻の佛艦隊に遭遇し最初の兵火が交はされ、佛蘭西側は三百人の捕虜を出し、船は沈沒或は捕獲されて大敗に歸したが、之が南米に於ける歐洲人の戰鬪の最初である。一五三三年葡國朝廷ではマルチン・アツフオンソが伯國に居を定めてから、伯國植民に鋭意し、國內をカピタニアに區分し、一五四九年トメ・デ・ソウザを總督としてその上に置いた。トメがバイアへ着くと共に、伯國最初の首府サンサルバドルの基を礎き、要塞を築造した、當時の軍隊は本國の軍隊をその儘に移したのである、そして六百人の兵卒と四百人の下賤民と、王家の下僕等を以て組織されてあつたと云ふ。

一五七〇年ドン・セバスチオンの治下に、徵兵制度が施行され、葡國軍隊以外に、一大尉、一見習士官、一軍曹、十伍長、及び卒二百五十人を有する中隊から成る聯隊が組織された。一六九九年リオに、ジョゼ・フエルナンド砲兵曹長を敎官として要塞戰術學校が設けられ、一七三八年に同校は陸軍士官學校となり、更に一八一〇年リニヤレス伯爵が陸軍大臣の時、王室陸軍士官學校となつた。一七一一年には貴族階級から成る特別中隊が編成された。

一七六七年の新編成で伯國軍隊は著しく進歩した、砲兵輕重のやうな新部隊が設置され、ジョアン・ヘンリケ中將は諸軍司令官に、ヴヤツケス・フンク少將は砲工兵隊司令官に任命された、此の時代の兵數は約二萬二千を數へた。一八一七年のペルナンブコの反亂後は、士官上長官の高級軍職は、伯國人には與へられず葡人にのみ限られるに至つた。一八二二年九月七日獨立宣言當時には、各地駐屯の軍隊は或は全部葡國人より成り、或者は葡伯人混合により組織されてゐたが、一八二五年には伯人のみの軍兵一萬四千であつた、伯國が獨立して初めて帝國となつた時代の軍隊は、次のやうな組織であつた。即ち步兵として將校下士卒七百三十五名よりなる。近衛狙擊一個大隊、外國義勇兵の交つた擲彈兵三個大隊、將校下士卒七百十七名より成る、狙擊隊二十七大隊で、步兵總員二萬三千と算せられた。騎兵第一聯隊は一八〇八年に組織されたるも、第二聯隊はミナス、第三聯隊はサンパウロの中隊を基とし、其他第七聯隊まであつた。砲兵は十二個の要塞砲兵、五個の野戰砲兵隊を備へ。其他に豫備大隊があつた、かくて伯國陸軍全員は約三萬に上り、その中に四個大隊の外國人義勇兵から成つたものがあつたが、軍規及び公安上不都合とあつて、一八三〇年に解散された、當時の將校はその高級者は、殆ど全部葡國植民地時代の葡國將校で、其他に外國軍人で雇傭されてゐる者もあつたが、一八三一年に解約してしまつた。

最初兵役年限は近衛兵は三年、其他は八年であつたが、一八二六年に陸軍志願兵年限を四年に定め、其の翌年以前の規定を復活した。各縣の守備兵はその縣總督の下の司令官に隸屬し、各地方毎に規定を有してゐた。一八三一年にドンペドロ一世が廢位となり、攝政々治となると共に軍隊組織にも改革があり、步兵は狙擊隊十六個大隊、四隊の騎兵、五隊の要塞砲兵、一隊の野戰砲兵とから成り、マトグロツソには狙擊一個大隊騎兵及び、要塞砲兵二個中隊を有し、將卒を合せ一萬四千三百四十二名に減少した、一八三八年には卒の數を一萬二千に定め、一八四五年に一萬九千八百五十三名を最大限と定め更に一八四七年に、新編成があり二萬に增加された。

一八八九年共和政宣言の容易に成就したのは、當時の陸軍が薄遇されてゐた事が大に因をなすのであつた同年十二月に臨時政府は、平時に於ける兵員を二萬四千八百七十七名に增し、次のやうな編成をした。

工兵	二大隊	七八四名
砲兵	十大隊	三、六五五
騎兵	十二聯隊	四、八六〇
輜重兵	一大隊	二七八
步兵	三十六大隊	一五、三〇〇

兵員

一八九〇年に參謀本部は、大將四人、中將八人、少將十六人を組織され、同年四月十二日に共和國陸軍敎育令が發布され、聯隊學校、士官學校、高等戰術學校、實務學校等が設けられ、同時に幼年學校、下士學校工科學校等が開設された、一八九八年に高等戰術學校は、伯國陸軍學校と改められ、陸軍敎育の中樞として聯邦首都ブライア・ベルメエリヤの舊校舍が設けられた。一八九六年の法律、一八九九年の細則に依り、參謀本部は一局四課より成る事となり同年陸軍經理部が設けられ之も同樣に一局四課に分たれ、尙ほ同年に工兵監及び砲兵監が設置された。

共和國內は七軍區に分たれ、各軍區は將官の司令官を有し、各軍區は衛戍地方に分たれ、各衛戍地方は亦國境守備地方に分たれた。

進級令は一八九一年に定められ、分限令は一八九〇年に發布され、其後僅かの變改はあつたが今日に行はれてゐる、陸軍士官學校は一九一三年に改正され、一九一八及び一九一九年に各兵科に分科され、一九〇五年に參謀學校が設立された、陸軍編成は今日に至る迄、度々改正された、即ち、一九ジョアン・メデエロス大將が陸相の一七年の法律に依り契約をなせるものは、第一軍籍の補助部隊である。

兵役年限は志願兵及ひ徵兵とも、一年乃至二年、再役志願は二年以上で、特別な事情の下には四ヶ月、十六ヶ月の敎練を施す。

伯國內は七衛戍地方と、二軍區に分たれ第一衛戍地方は、聯邦首都、リオ州、エスピリト・サント州、第二はサンパウロ及びゴヤス、第三は南大河州、第四はミナス州、第五はバイア、セルジペ、アラゴアス各州第六はペルナンブコ、パライバ、北大河、セアラ各州、第七はピアウイマラニオン、パラ、アマゾナス各州及びアクレ直轄地で、第一軍區はマトグロツソ州、第二軍區はパラナ及びサンタ・カタリナ兩州である。

各州及び聯邦首都は、徵兵署を設け、兵籍編入、動員、召集、抽籤等の事務を執る。

軍政に就ては陸軍省が統轄し、參謀本部、軍器經理、衛戍監理部、高級司令部(師團、衛戍、軍區)等が隸屬してゐる。

而して現制軍隊は次の部隊から成る、即ち(イ)參謀本部(ロ)戰鬪部四科(ハ)各種部隊(ニ)特科隊で、步兵五個師團、騎兵三個師團、混成及び獨立旅團一個を有し、步兵師團は步兵二個旅團、砲兵一個旅團、騎兵師團の一個聯隊、工兵一大隊、偵察隊一小隊から成り、騎兵師團は騎兵二旅團、野戰砲兵二中隊、步騎兵一大隊、輜重兵一小隊、偵察隊一小隊を有す。混成旅團は狙擊隊三大隊、獨立騎兵二聯隊、混成砲兵一聯隊、一工兵大隊一飛行小隊から成り、步兵は十二步兵聯隊、二十九狙擊大隊、三步騎兵大隊、二建設中隊から成る步兵聯隊は三步兵大隊、一重機關砲中隊で一大隊は步兵三中隊(戰時は四中隊)及び輕機關銃隊一小隊から成り、重機關砲中隊は同三小隊と附屬隊とよりなる、狙擊大隊は步兵三中隊(戰時は四中隊)と混成機關銃中隊から成り、步騎兵大隊は三中隊と重機關砲隊一中隊からなる。

紙面に餘裕がないので、此他に就ては機を見て報道する事とし、最後に平時に於ける伯國陸軍兵數を掲げて本稿を終らう。

	將校	下士	卒
步兵科	二、九五九	七三、九三八	一、六四八、五四九
騎兵科	一	一	一〇
野戰砲兵科	四九八	二一一	四七九
要塞砲兵科	二九一	一一二	一三六
工兵科	三九八	三一一	八二九
航空科	一三一	四一一	七六三
攻擊科	六〇	一〇	二九
特科	一〇八	一〇六	一〇四
計	一五、三〇〇	二七八	一、六四八、五四九

綺麗で、迅速で、丁寧で有名な
石村洋服洗濯所
電話セントラル參貳參四
Rua dos Lapas 6 No. 236

最新式
機タンラプ
及
稻苅鎌其他農具一切
皆樣の御贔負に報ん爲本年度は特に材料を撰び堅牢に廉價を旨として左の價格を以て御用命に應ずべく候へば多少に拘はらず倍舊の御引立願上奉り候
代價廿五ミルレース(但ノロエステ線内は送料共)
聖州ノロエステ線リンス驛
中村仁太郎鐵工所
NAKAMURA NITTARO
Linha Noroeste

中山旅館
コンデ、デ、サルゼーダス街五〇番
電話 セントラール 中山忠太郎 四五五九番

修繕は
齊藤時計修繕所
ルア、コンデ、デ、サルゼーダス十七番

GARAGE MIKADO
Torpedinho Overland
40 Telephone Cidade 40
Estacionamento de Av. São João, 140
A hora na Cidade 8$000
●●●●●貸自動車業
北米製最新式
開放自動車
市內一時間八ミル
電話シダーデ四〇
アベニーダ
サンジョアン
一四〇
林岩松
龜井千男

YAMA-K. SHOKAI
Ship-chandlers
Telephone Central, 1973
Rua Martim Affonso, 41
SANTOS
大阪商船會社
日本郵船會社御用達
各艦船食糧賣込業
並に農產物仲買業、生、干、鹽魚卸販賣
カマヤ
K合資商會
小淵
岸本
合同經營
南米サントス市
マルチンアフオンソ街四一番
電話セントラール一九七三番

我國實業界一粒撰りの南米視察實業團來聖

既報の如く故國實業界一粒撰りの有力者を以て編成され山科禮藏氏を團長とせる南米視察實業團は去る五日リオに安着、第一目的たる伯國獨立百年祝典參列の役目を果したる後リオ及び其の附近を視察し、十三日ミナス・ゼラエス州首府ベロ・オリゾンテに至り同州政府に敬意を表したる由であるが、又昨日同地出發今夕當市ルース驛着の豫定で、サンパウロ州視察日程は左の如くであると

實業團聖州視察順序

十六日　聖市ルス驛着（ミナスより）
十七日　休息
十八日　午後州統領並各省長官訪問
十九日　朝　領事レセプション
二十日　汽車（バルデアソン經由）にてリベロンプレトに行同地泊り
廿一日　同日夜汽車にてグアタパラ耕地視察
廿二日　正午サントス港着同地泊り
廿三日　朝サントス港出立、レヂストロ行き
廿四日　（日曜）植民地視察
廿五日　朝レヂストロ出立、夜サンパウロ市着
廿六日　總領事招待（午餐會）
廿七日　より三十日まで四日間は團員四組に分れ
A組は北西線アルブケルケ、リンス及上塚周平氏、鈴木貞次郎氏等の植民地視察
B組はリオグランデ流域のイガラバー視察
C組はソロカバナ線オウリーニョス視察
D組はサンパウロ市に留り同市及附近商業視察

右の內A組は北西線は廿六日午後五時發汽車にてサンパウロ市出立其他は廿七日夜汽車にて當市出立何れも三十日午前サンパウロ市歸着

十月一日（日曜）午後發汽車にて一同サンパウロ市出立、バラナ州首府クリチーバに向ふ

●エピタシオ大統領に日本勳章贈呈

堀口日本特使は八日カテッテ宮に於てエピタシオ大統領に謁見し聖上陛下からの聖旨を奉じ大勳位菊花章を贈呈した右傳達式後練習艦隊司令官谷口中將以下幕僚及南米視察實業團の一行は野田書記官に伴はれて謁見した

●特派大使暇乞ひと到着

米國特使國務卿ヒュウズ氏及び白國特使ブラッセル市長アドルフ・マックス氏は十二日エピタシオ聯邦大統領に謁見夫々暇乞を濟ませヒュウズ氏は同日戰艦メリーランド號で歸米の途に就きマックス氏は十三日アラグアイア號で歐洲へ向つた尙ほ葡國特使たる同國大統領はポルト號で昨日リオへ到着

●サントスの日本人獨立偉勳者の墓に詣づ

去る七日の伯國獨立百年祭當日サントス在留の日本人はカルモ修道院寺院內安置の獨立當時の偉勳者ジョゼボニファシオの墓前に美しい花を供へたので上院議員カンヂド・ロドリゲス氏から聖市總領事館へ禮電をよこした

●日伯新通商條約

外相アゼベエド・マルケス氏は在東京の伯國公使へ宛てた日伯新通商條約案の寫を農務大臣へ移牒した該公文書に依れば伯國では日本輸入稅輕減品目中に伯國棉を包含せしめ度日伯兩公使館內に兩國の生產品陳列所を設置する案が含まれてゐる

●外相の記念博日本館參觀

十一日リオの獨立百年記念大博の佛蘭西館開館式に參列した外相アゼベエド・マルケス氏は式後日本館を訪ひ堀口公使の案內で參觀した尙同時に墨國公使トーレス・ヂイアス氏同夫人及羅馬法王特使ケルビニ僧正も日本館を觀覽し好印象を得て歸つた

●州統領レセプション

△藤田總領事祝辭を述ぶ

八日午後二時から州政廳に、州統領は各國領事團を招いて、獨立百年祝賀のレセプションを催した、各國領事が金ピカの大禮服で參集するのを見る人で、政廳前は黑山を築いてゐた、此の日先任の伊太利領事が微恙欠席の爲、次席の藤田總領事は領事團を代表して、聖州の繁榮及び州統領の幸福を祈つて賀詞を述べ、州統領は締盟各國の隆盛及び各領事の健康を祝して之に答へ、華かな氣分が皆の顏にみなぎつてゐた。

●總領事レセプション

藤田總領事は日伯の親善を更に濃厚ならしめんが爲め來る十九日午後四時から練習艦隊の將士と實業觀光團員を主賓とし之に多數の伯人其の他を招待し當市第一のサロン、トリアノンに一大レセプションを催ふす由

●博物館開館

七日百年祭を期して再開したイピランガ博物館當日の入場者數は三萬五千以上と算せられ混雜の爲陳列棚硝子の破損其他館內掃除に水道不足等の爲十日の日曜は開館せず十二日に再び蓋を開け開館時間は從前通り十二時乃至午後四時迄火木日の三日間は四時半迄と定められた

本日サンパウロ市着の南米視察實業團員

●國際端艇及徒步競爭に日本は三等

△米國の卑怯な勝方

去る十日リオで、百年祭參列の各國軍艦及び伯國軍艦の乘組員で、國際端艇が催された、初め委員間に意思の疎通を缺き、使用艇に就き問題が起り、伯國海軍では四隻の▲競爭艇を備えてあつたに拘らず、米國側は各自艦用の競爭艇を使用する事を頑張り通したゝめ、持參しなかつた日本側は一番不利の地に立つた兎に角各艦から端艇や小蒸汽艇に日章旗をなびかして盛に應援し、選手も勇み立つてオールを握つた。愈々第八回二千米突で、日英米其他各國の艇がスタートに並ぶと、觀客席は一しきりどよめき立つた

▲皮肉にも日米はコースを隣合つたスタートが切られて、百本ほど擢を入れ互に並進してゐた頃、俄に米艇は日本側のコースへ入つて來たので日艇も舵を曲げて暫くの間は行手を壓せられながら進む中、米艇は急に自分のコースに直つてピッチを上げ日艇も亦向を直して進んだ、この爲に既に非常な差を生じ、決勝線へは米英すれ〳〵に着で入り、約二艇身を遲れて日本は三着となり、其他各國の艇は遙かに遲れた。口惜しかつた日本側の敗は全く使用艇と競爭中米艇の卑怯なやりかたに據るのである。又前日徒步競爭が行はれたが、一二等共英國が占め、日本は四等であつたが、大兵連の中に小兵の日本人が走るので、觀客の同情聲援は殆ど皆日本側に集まつてゐた。

●鈴木代議士出發

サンパウロ州視察後リオに船待の代議士鈴木梅四郎氏一行は十一日アメリカン・レジョン號にてリオ出發紐育に向はれたるが同氏は北米、メキシコ、加奈太等を視察し來年三月頃東京着の豫定だと

●津山正金調査部長來着

實業團員横濱正金銀行本店調査部長津山英吉氏は大宰正伍氏同道今朝リオより聖市到着の豫定にて、又同行リオ支店長樋口勝氏は實業團一行に加はりミナス州に赴き團と共に當夜着聖の筈

●松原大商調査部長先着

實業觀光團員大阪商船會社本店調査部長松原季九郎氏は十四日聖市着ホテル・ロチセリーに投宿された

●北海道大學教授高岡博士來伯

農、法學博士で植民政策、農業政策を專攻の北海道大學教授高岡博士は八月二日橫濱出發北米を經て伯國視察の途に上つた同博士は十月下旬又は十一月上旬來聖の豫定で伯國外南米諸國及び歐洲を漫遊する

●練習艦陸乘組員の歡迎順序は定まつた

待ちに待つた淺間、出雲、磐手の三艦より成る我練習艦隊は愈々今朝の八時サントス入港と定まつたのでサンパウロ及サントスの歡迎委員は豫て艦隊側と打合せ濟みのプログラムに基き本紙附錄『謹告』の順序にて歡迎することに確定したが十八、十九二十の三日間聖市はアクリマツソン公園に於て正午十二時から艦隊乘組員來聖諸君に晝食又は茶菓の饗應を爲し其の際在留同胞にも茶菓の備へを爲し歡談の便を計りある由なれば同胞は成るべく多數同公園へ出掛けて歡迎の意を表して貰ひたいとは委員の懇望である

▲又十七日（日曜）午後一時からはサントス港のフートボール、グラウンドに於て同港の伯人倶樂部、學校相會し日本艦隊歡迎の主意にて運動會を催ふし、艦隊のチームとミカド倶樂部のチームとの野球試合も其の場で催ふす由なれば青年諸子は千載一遇とも云ふ此の好機を逸せず是非見物に出掛けるがよい、又廿一日の午後一時からは聖市米人野球場（コンデ街坂脇）に於て艦隊チームとミカドチームとの野球試合を爲すべく目下交渉中ださうだから多分其の通り實現するだらうと。

▲軍艦見物は艦隊側では出來得る丈便宜を計るとのことにて十七日（日曜）午前八時から午後四時まで（晝食時間を除き）毎日參觀を許すとのことだから、同胞側でも相當の禮儀と敬意とを以て軍艦を見せて貰ふことを忘るべからずである

●シカゴ丸無事入港

移植民百廿七名を載せ七月三日神戸出帆の大阪商船シカゴ丸は豫定より六日間遲れ去る十三日正午無事サントス入港移植民も至つて健康一名の病者もなく同日午後上陸移民收容所に移つて久々振りに陸の夢を結んだ

●廣安氏歸國

大阪商船會社サントス出張員の廣安鹿夫氏は本店から歸國命令に依り本日サントス出帆のシカゴ丸にて家族同伴歸國出立の由である

尋人

原籍山口縣都濃郡須々万村江村小次郎

右現住所至急當館まで御通知ありたし

大正十一年九月

在サンパウロ　帝國總領事館

御暇乞

謹啓　各位益々御清穆奉賀候小生儀在伯中は一方ならぬ御厚情に預り且又出發の際は御繁忙中にも係はらず遠路御見送りを辱し其の上多大なる餞別迄被下誠に有難く御禮申上候愈々十六日サントス出帆のメキシコ丸にて歸國致す事と相成申候乍略儀以紙上厚く御禮申上候向後各位益々御健勝にて御發展あらん事祈上候

大正十一年九月十六日　高田七藏

辱知諸賢

拜啓　小生儀本月中旬サントス出帆豫定のメキシコ丸にて歸國致可候就ては地方人に書面を以て窺問致候處何たる返信無之止を得ず歸國可致候

在モジアナ線カニンデ驛　高原長助

私儀今般協議の上和田氏と離緣復籍致し候間右謹告候也

長野縣人　吉原千苗

御暇乞

謹啓　各位益々御清穆奉賀候小生儀別紙被下誠に有難く御禮申上候愈々十六日サントス出帆のメキシコ丸にて歸國致す事と相成申候乍略儀以紙上厚く御禮申上候向後各位益々御健勝にて御發展あらん事祈上候

大正十一年九月十六日　高田七藏

辱知諸賢

謹啓　小生儀本月中旬サントス出帆豫定のメキシコ丸にて歸國致可候就ては地方人に書面を以て窺問致候處何たる返信無之止を得ず歸國可致候

在モジアナ線カニンデ驛　高原長助

訃報

既報の如く故國實業界一粒撰りの有力者を以て編成され山科禮藏氏を團長とせる南米視察實業團は去る五日リオに安着、第一目的たる伯國獨立百年祝典參列の役目を果したる後リオ及び其の附近を視察し、十三日ミナス・ゼラエス州首府ベロ・オリゾンテに至り同州政府に敬意を表したる由であるが、又昨日同地出發今夕當市ルース驛着の豫定で、サンパウロ州視察日程は左の如くであると

實業團聖州視察順序

十六日　聖市ルス驛着（ミナスより）
十七日　休息
十八日　午後州統領並各省長官訪問
十九日　朝　領事レセプション
二十日　汽車（バルデアソン經由）にてリベロンプレトに行同地泊り
廿一日　同日夜汽車にてグアタパラ耕地視察
廿二日　正午サントス港着同地泊り
廿三日　朝サントス港出立、レヂストロ行き
廿四日　（日曜）植民地視察
廿五日　朝レヂストロ出立、夜サンパウロ市着
廿六日　總領事招待（午餐會）
廿七日　より三十日まで四日間は團員四組に分れ
A組は北西線アルブケルケ、リンス及上塚周平氏、鈴木貞次郎氏等の植民地視察
B組はリオグランデ流域のイガラバー視察
C組はソロカバナ線オウリーニョス視察
D組はサンパウロ市に留り同市及附近商業視察

右の內A組は北西線は廿六日午後五時發汽車にてサンパウロ市出立其他は廿七日夜汽車にて當市出立何れも三十日午前サンパウロ市歸着

十月一日（日曜）午後發汽車にて一同サンパウロ市出立、バラナ州首府クリチーバに向ふ

訃報

既報の如く故國實業界一粒撰りの有力者を以て編成され山科禮藏氏を團長とせる南米視察實業團は去る五日リオに安着、第一目的たる伯國獨立百年祝典參列の役目を果したる後リオ及び其の附近を視察し、十三日ミナス・ゼラエス州首府ベロ・オリゾンテに至り同州政府に敬意を表したる由であるが、又昨日同地出發今夕當市ルース驛着の豫定で、サンパウロ州視察日程は左の如くであると

實業團聖州視察順序

十六日　聖市ルス驛着（ミナスより）
十七日　休息
十八日　午後州統領並各省長官訪問
十九日　朝　領事レセプション
二十日　汽車（バルデアソン經由）にてリベロンプレトに行同地泊り
廿一日　同日夜汽車にてグアタパラ耕地視察
廿二日　正午サントス港着同地泊り
廿三日　朝サントス港出立、レヂストロ行き
廿四日　（日曜）植民地視察
廿五日　朝レヂストロ出立、夜サンパウロ市着
廿六日　總領事招待（午餐會）
廿七日　より三十日まで四日間は團員四組に分れ
A組は北西線アルブケルケ、リンス及上塚周平氏、鈴木貞次郎氏等の植民地視察
B組はリオグランデ流域のイガラバー視察
C組はソロカバナ線オウリーニョス視察
D組はサンパウロ市に留り同市及附近商業視察

右の內A組は北西線は廿六日午後五時發汽車にてサンパウロ市出立其他は廿七日夜汽車にて當市出立何れも三十日午前サンパウロ市歸着

十月一日（日曜）午後發汽車にて一同サンパウロ市出立、バラナ州首府クリチーバに向ふ

訃報

既報の如く故國實業界一粒撰りの有力者を以て編成され山科禮藏氏を團長とせる南米視察實業團は去る五日リオに安着、第一目的たる伯國獨立百年祝典參列の役目を果したる後リオ及び其の附近を視察し、十三日ミナス・ゼラエス州首府ベロ・オリゾンテに至り同州政府に敬意を表したる由であるが、又昨日同地出發今夕當市ルース驛着の豫定で、サンパウロ州視察日程は左の如くであると

實業團聖州視察順序

十六日　聖市ルス驛着（ミナスより）
十七日　休息
十八日　午後州統領並各省長官訪問
十九日　朝　領事レセプション
二十日　汽車（バルデアソン經由）にてリベロンプレトに行同地泊り
廿一日　同日夜汽車にてグアタパラ耕地視察
廿二日　正午サントス港着同地泊り
廿三日　朝サントス港出立、レヂストロ行き
廿四日　（日曜）植民地視察
廿五日　朝レヂストロ出立、夜サンパウロ市着
廿六日　總領事招待（午餐會）
廿七日　より三十日まで四日間は團員四組に分れ
A組は北西線アルブケルケ、リンス及上塚周平氏、鈴木貞次郎氏等の植民地視察
B組はリオグランデ流域のイガラバー視察
C組はソロカバナ線オウリーニョス視察
D組はサンパウロ市に留り同市及附近商業視察

右の內A組は北西線は廿六日午後五時發汽車にてサンパウロ市出立其他は廿七日夜汽車にて當市出立何れも三十日午前サンパウロ市歸着

十月一日（日曜）午後發汽車にて一同サンパウロ市出立、バラナ州首府クリチーバに向ふ

訃報

既報の如く故國實業界一粒撰りの有力者を以て編成され山科禮藏氏を團長とせる南米視察實業團は去る五日リオに安着、第一目的たる伯國獨立百年祝典參列の役目を果したる後リオ及び其の附近を視察し、十三日ミナス・ゼラエス州首府ベロ・オリゾンテに至り同州政府に敬意を表したる由であるが、又昨日同地出發今夕當市ルース驛着の豫定で、サンパウロ州視察日程は左の如くであると

實業團聖州視察順序

十六日　聖市ルス驛着（ミナスより）
十七日　休息
十八日　午後州統領並各省長官訪問
十九日　朝　領事レセプション
二十日　汽車（バルデアソン經由）にてリベロンプレトに行同地泊り
廿一日　同日夜汽車にてグアタパラ耕地視察
廿二日　正午サントス港着同地泊り
廿三日　朝サントス港出立、レヂストロ行き
廿四日　（日曜）植民地視察
廿五日　朝レヂストロ出立、夜サンパウロ市着
廿六日　總領事招待（午餐會）
廿七日　より三十日まで四日間は團員四組に分れ
A組は北西線アルブケルケ、リンス及上塚周平氏、鈴木貞次郎氏等の植民地視察
B組はリオグランデ流域のイガラバー視察
C組はソロカバナ線オウリーニョス視察
D組はサンパウロ市に留り同市及附近商業視察

右の內A組は北西線は廿六日午後五時發汽車にてサンパウロ市出立其他は廿七日夜汽車にて當市出立何れも三十日午前サンパウロ市歸着

十月一日（日曜）午後發汽車にて一同サンパウロ市出立、バラナ州首府クリチーバに向ふ

16 de Setembro de 1922 No. 253

Noticias do Brazil

大正十一年九月十六日　土曜日　第二百五十八號

大石内藏之助

八十五

半井桃水

眞先に騙込んだのは、例のかしく坊であつたが、此時既に平左衛門も腹かき切つて居たのである。

かしく坊は取敢ず、平左衛門を引起したが、見事最期を遂げて居る、次にはつを檢めたが、是も早事切れて居た。然る後かしく坊は何と思うてか、はつが懷中をかい搜つて、一通の書面を取出し、燈火の上に翳して、またもやぱつと煙にした。

此の時早し彼の時遲し、闖入んだ東大盡、

『これ、かしく坊、今汝が火中したのは、ありや一體何であつた』

『何で御座りませうぞ、はつ樣が生前に、取交した千枚起請、今にも檢死を受ける時、見附けられては其の爲めに、何程迷惑するお人があらうやも知れませぬ、其處を思うてかしく坊が、氣轉の働き斯の通り』

『して二人とも呼吸はないか』

『花は疾く散り、蝶の夢も覺果ました』

此の中主を始めとして、多勢どや〳〵入來る體に、東大盡は慌しく元の座敷へ立歸り、長坐をしては關係と、夜半しらみつを引あげた。

こんな所へ居合したも、淺からぬ因緣と、かしく坊は夜の明けるまで二人の死骸に讀經した上、早朝此處を立去つた。

坊主頭に不似合な、揚屋の暖簾かいくゞり、ぬつと出るかしく坊を、呼留めた若士は、例の矢頭右衛門七である。

『少し物を承はりたい、昨夜當家に於て、情死があつたとの噂、夫は事實で御座らうか』

かしく坊は右衛門七を、じろ〳〵と眺めつゝ、

『慥か赤穗の御浪人、平樣といふお客が、淡路屋の全盛、はつ樣を刺し殺し、その身も腹を切らしやりました』

『赤穗の浪人平樣とは、橋本平左衛門であるまいか』

『好う御存じで御座りますな』

『では橋本か、あの平左衛門か』

『紛れもない橋本平左衛門樣、おま樣はお身寄でばし御座りますかへ』

『いや遊女と心中致すやうな、精神の腐つた士、身寄でもなければ知邊でもない』と唾吐き散して行過ぎかけたが、急にまた立留り、

『緣も由緣もないとはいへど、武士は相身たがひ、その赤穗浪人は、遊女が色香に迷うた餘り、痴情の爲めに身を殺したか、但し外に仔細あつてか』

かしく坊は四邊を見廻し、につこと笑つて小聲になり、

『迷ひの上の情死とは、世間を繕ふ表面、まことは深い仔細があつてな』

『ナニ深い仔細があるとは』

『一大事を悟つた女、神文の手前捨て置かれず、是非なく命取つた上、その身も自害致された、平樣の胸中想像さへ涙で御座る』と樣子ありげな言葉を聽いて、右衛門七は胸を躍らし、

『何か大事の書面でも、その士は所持致したか』

『夫も御心配に及びませぬ、志あるものが拾ひ取り、手早く火中致したさうな、さらば是でお別れ申す』と言捨てさつさと行く。

＊　＊　＊

乞食坊主が怪しい返答、右衛門七は心に懸り、今暫し引留めて、詮議せうかと思うたが、生じ事を荒立ては、藪をたゝいて蛇に驚く、後悔があらうかも知れぬ、さりとて此の儘に別れるも心殘りと、腕拱いて思案の中に、かしく坊はいつもの通り、小唄面白う唄ひ出し、道行く人は足を留めてその周圍をおつとり卷いた。

右衛門七は是非に及ばず、一たび我家へ立歸つたが、とかく心配に堪へぬので、午後、原惣右衛門を曾根崎の閑居に訪うた。

『橋本平左衛門が成行、早お聽きなされましたか』

『曩程讀賣りが參つたので、略承知致して御座る』

『我々同志の中より、斯樣な不埒者を出し、亡君の御恥辱と相成ります段、何ども心外千萬の儀に御座ります』と悲憤の涙を催した。

『是と申すも惣右衛門、監督の行屆かぬため、大石殿に對しても、自餘の同志に對しても、誠に面目ない次第で御座る。萱野三平と言ひ、橋本平左衛門と言ひ、志ある士を、斯くむざ〳〵と殺しては、此の先ともに心許ない、斯樣な事があつて見れば堀部奥田の申す通り、一日も早く事を舉げるが、味方の利かと存じ申す就ては拙者も近い内、當地を立退いて京へ參り、大石殿へ所存の程を、申入れたい心で御座る。

『その儀は我々も願ふ處、斯く僅かの間に兩人まで、一味の士を失ひましては、甚だ心細う存じます、夫れに付いても尊公樣には、橋本平左衛門が自殺の仔細、御存じに御座りませうか』

惣右衛開は微笑を含んで、

『まんざら承知致さぬでもない、足下にも御存じかな』

『大事の書面を淡路屋の、はつと申す女に捨はれ、密計の漏れる事を、平左衛門心痛の餘り、遂に女を手に掛けて、其の身も自殺致したと申す者が御座ります』

●各植民地狀況を視察して
植民地諸子に望む（下）

衆議院議員　鈴木梅四郎氏談

尙ほ注意したい事は日本人が伯國人を始め歐米人を呼ぶに『毛唐』と云ふ言葉を用ゐるが之は甚だ能くない日本人に接觸してゐる外人は、うすうす夫れはどんな意かを知つてゐる者があるので、中には惡い考でなくうつかり『毛唐』と呼ぶものもあらうが、是非注意して『伯人』又は其の國の名をつけて英國人とか、伊太利人とか、亞米利加人とかと呼ぶやうにしたいものである。

更に進んで同化のことを少しく述べやうと思ふ。尤も此の同化と云ふ問題に就ては種々反對論もない譯でもないが、余輩の思ふ所は、既に故國を出て來た以上は、永久に此の國人となつて、活動するのが良策、寧ろ必要だらうと思ふ。今日英國人が世界至る處に優勢な地位を占むるも、先づ移住國に歸化し、よく同化して活動し、成功した事は大に學ぶべきである。今回余輩の南米へ渡る途中各所に英國人活躍の實情を見たが、歸化してそこの國籍を得て事業をするので、資本も自然に入つて來て、益々活動が容易になつて來る。一例を擧ぐれば亞國に於ける如き、三十億圓以上の英資が入つてゐる、そしてそこには數代も前から歸化して、亞國人となつて働いてゐるので、國籍は亞國にあるが、民族としては英人なので、牧場や農場を經營し、生産物は英本國の必要品にして而も不足勝な牛肉、皮、穀物等なので、英國からは亞國に出來ない製造品を積んだ船を廻し、復航には前述の諸農産物を積んで歸る、かくて英亞双方を利益して、貿易は極めて圓滿に行はれてゐる、日本と伯國とは、距離の關係からして、英と亞との如くは行かないとしても、設々多くの人が來て、永住の覺悟で發展し、種々な方面に活動するやうになれば、前述の如く在住國及び本國、双方を利するやうになることは明である、故に既に此處まで折角出て來た以上は、子孫代々伯國の土となる事を決心し、歸化をして落ち着く事が肝要である。

第五には、同化はしてもその國の惡習慣には染まらないやうにしたい。此國のやうに天惠の豊かな、生活の安樂な所では、從來土着の人は勿論移住者も時を過ると共に、所謂南米氣分になるものが多いやうに見受ける、亞國に於ても同樣の狀態で、在留各國人とも亞國氣分になつてゐるやうに見受けた、亞國に於ける成功者と呼ばれる者の日常生活は、先づ朝十一時頃起床し、食事を濟まして働先へ出かけるのは十二時から一時頃、それから多くも四時間以上は働かない、歸宅して良酒を傾け美食を食ひ、踊つたり音樂を聽いたりするばかりでなく、夜をこめて賭博に熱し、寢に就くのは大概翌朝の午前三時又は四時頃、從つて起床が遲れると云ふ理由で、全く享樂に耽溺するのが成功富豪の生活狀態である、それ程富豪でない者も、皆朝寢宵張で日本の本國の人と比べたら、半分も働かない賭博、富籤、馬券等が盛で之等は決して賞めた事ではない、同國に居る日本人迄がさうだ、とは云はないが人と云ふものは、周圍の狀勢に負けるもので、知らず〳〵に惡い風習になづむものであるから注意を要する、伯國でも內地方では、そろ〳〵賭博が日本人間に始まつたと云ふが、それが事實なら甚だ好ましくない事である、善い事は學ばなければならない、然しかゝる惡習には絕對に染んではならない、そんな時間があるならば新聞雜誌圖書を讀むとか、他にいくらも樂しみながら、研究をする事があるであらう。

之を要するに當國にある日本人諸子は、日本人中でも水平線以上の長所を有する者だと思考する、何故なら一萬二千餘浬の遠國へ、家族を伴つて母國を距ると云ふ事は、實に容易な事ではない、實に大決心である、故に渡伯と決心した事は既に、普通水平線の日本人以上に偉い事を證するので、實に之等の人々は敬服に値する、所で之等の人々は日本出發の大決心と共に、大成功を握らうと云ふ覺悟があつたのだ、何卒出發當時の決心と、その氣分を忘れる事なしに、奮闘努力して伯國の爲にも日本の爲にも兩爲となり、英國人が海外に於て求住土着の心懸を以て着々として成功し、故國を利すると共に在住國を益する如からん事を、日伯兩國の將來の爲に、在伯同胞諸子に熱望する次第である。（談話。文責記者にあり）

K

削節
干魚

發賣元

三共商會

各地
食糧店
にあり

Rua Cochrane, 113
Teleph. .....
SANTOS

OSAKA SHOSEN KAISHA

大阪商船會社滊船着發廣告

●メキシコ丸
北米バナマ經由　サントス發九月十六日
横濱、神戸行き　リオ港發九月十八日

●シカゴ丸
右同斷　サントス發　十月十七日
リオ港發　十月二十日

尙詳細は左記へ御問合せ被下度候

Antunes dos Santos & Co. Rua José Bonifacio, 17
S. Paulo :— Rua 15 de Novembre 167
Santos :— Wilson Sons & Co. Ltd.
Rio de Janeiro :— Av. Rio Branco, 37

BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD.
(THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)
Rua da Candelaria, No. 23
Caixa Postal 380
Rio de Janeiro

ウリトリテ、テガミノ、オモテニ、ハフルベシ

リオ、デ、ジャネイロ
横濱正金銀行支店

郷里送金

一、日本金に引直相場は當分伯貨三ミル七百五十レースにつき日本金壹圓

二、日本內地郵便爲替料、書留料其他總て當店に於て負擔いたし即ち全く無手數料にて御郷里の受取人へ送り屆け申上候

三、金子は現金封入、郵便爲替又は銀行小切手にて當店へ御送り被下度猶ほ横濱正金銀行勘定として Banco Commercial do Estado de São Paulo へ御拂込被下候ても差支無之候

四、何れにしても送金申込書は必ず忘れずに當店へ御送り被下たく候

預金

日本貨定期預金利息　六ケ月以上　年六分
伯貨定期預金利息　六ケ月以上　年四分五厘
伯貨當座預金（小口）　壹ケ年以上　年五分
年四分

◆預送金用紙は御請求次第直に御送り可致御不審の點は御遠慮なく御問合せ被下度候

◆預金通帳は書留郵便にて御送付可申上候間御申込の際最寄郵便局御指定相成候はゞ御便宜に有之候